

プログラム番号	06080
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	国立大学法人 総合研究大学院大学 生命科学研究科		
②学長名	小平 桂一		
③所在地	〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町上山口字間門1560		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	学務課長	
	担当者氏名	伊東 陽子	e-mailアドレス kokusai@soken.ac.jp
	電話・FAX番号	046-858-1521 (電話), 046-858-1541 (FAX)	
⑤ホームページ URL	http://www.soken.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	90人 (うち、国費留学生 45人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	留学生のための英語による生命科学研究者養成プログラム
②プログラムの形態	博士課程 (一貫制) (5年間)
③実施研究科・専攻	生命科学研究科・生理科学専攻
	(所在地) 〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38
④連携大学・研究科・専攻名	生命科学研究科・ 遺伝学専攻, 基礎生物学専攻
⑤受入れ学生数	6人 (うち研究留学生優先配置人数: 3人) (うち日本人学生数: 0人)
⑥担当教員数	合計 198人 (うち専任: 194人、兼任: 4人、非常勤: 0人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 生命科学研究科長 教授
	研究科長名 小松 英彦

【3. プログラムの内容】

概要

生理科学、基礎生物学、遺伝学という生命科学研究科の3専攻が協力して、英語による一流の科学者養成を目指す。このため海外におけるセミナーや学会の際にインタビューを実施し、生命科学研究科の優れた研究内容を広く海外の学生にアピールすると共に、優秀な学生をリクルートする。入学後は各専攻の英語による大学院教育を拡充するとともに、相互訪問や生命科学共同セミナーへの参加をサポートし留学生同士、および日本人学生との間の人的ネットワークの形成を深化させる。多数の留学生の受け入れによって国際的交流が日常化し、大学としての国際競争力および大学院生の国際競争力の強化が期待される。

本プログラム開設の趣旨

生命科学研究科では総合研究大学院大学でも最も早く国際大学院コースを設置し、英語による大学院教育を進めてきた。発足以来10名が入学している。国際大学院コースでは、すべての教育を英語で受けさせることによって、それ以前からの留学生の受け入れを一層拡大することに成功した。しかし、各国からの留学生はバックグラウンドが非常に多様であり、優秀な学生といえども標準年限の3年で学位取得するのは容易ではない。一方、生命科学研究科では3年前より5年一貫制の博士課程を導入し、日本人学生にはより早い段階から5年間の教育を行い、より高い成果を得て学位を取得できる方策を進めてきた。この度、「国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行う特別プログラム」により、外国人留学生についても5年一貫制課程で、より充実した息の長い教育を行えることになった。今後は、既に学術協定を結んでいる海外の大学との連携を一層強化すると共に、この他にも積極的に学術協定を結び、アジアのみならずヨーロッパやアメリカから留学生を誘致し、留学生の増加と一層の多様化をはかる。入学後は従来の各専攻における英語による大学院教育を拡充するとともに、3専攻の協力による新しいプログラムを実施し、各専攻の留学生同士および日本人学生との交流の深化を通じて、人的ネットワークを形成させる。以上の過程を通じて、将来の活発な国際共同研究やグローバルな視点に立った地球規模の国際貢献プログラムのシーズを芽生えさせ、総研大の国際競争力の強化につなげていきたい。

本プログラムの内容及び特色

1 英語によるプログラム

本プログラムでは基本的に日本人向けの5年一貫制と同様の教育・指導体制を英語で実施する。生命科学研究科の教員による毎週行われる専門科目、共通専門科目、e-learning等の講義や不定期の生命科学セミナー、主任指導教官による実験指導、論文指導、専攻全体の教員による研究中間発表会のプレゼンテーション指導、評価などを英語で行う。従って英語によるコミュニケーション能力が必須であり、必要であればTOEFLなどの得点を入学試験の際に参照する。生命科学研究科は各分野での一流の研究者の集合であり、英語による国際レベルの研究交流は日常的に行われ、英語による講義や研究指導も従来から行われている。また研究現場におけるコミュニケーションも英語を基本とし、日本人学生についても英語によるコミュニケーション能力を高めることに努める。

2 体験入学のための短期招請

生命科学研究科ではすでにいくつかの海外の大学と学術交流協定を結んでいたりと、共同研究を通じた人的交流を行ったりして、一定のネットワークを持っている。本プログラムではこれを一層拡充し、海外との共同研究を通じた学生の国際交流を支援し、人的ネットワークを学生層にも広めるよう努力する。特に、留学希望者については、各専攻の予算で短期間（2週間—2ヶ月）来日を招請し、研究現場における英語による大学院教育の実際を体験させる。これによって本プログラムの内容を理解させ、より多くの留学生が入学しやすいように配慮する。

3 留学生に対する入学後の配慮

各留学生には特定の日本人学生がチューターとしてつき、日本での生活面でのサポートを行う。また留学生同士の交流の場も設け、日本で留学生が孤立することのないよう、十分に配慮する。留学生の宿舎の手配についても、指導教員やチューターが細かくサポートを行っていく。また総研大のサマープログラムや生命科学セミナーなどの機会に留学生を参加させることによって、日本人学生との広い人的ネットワークを形成させる。また総研大生命科学研究所は岡崎と三島にそのキャンパスが分かれている。本プログラムでは、従来の各専攻で行われていた教育に加え、生命科学科が共同で取り組む企画を盛り込むが、このような共同で行うプログラムについて、留学生が岡崎と三島を行き来できるよう、年2回程度の経済的なサポートを実施する。これにより生命科学共同セミナーへの参加や個別の研究者研究室訪問を行っていただく。またWebELSを通じて英語による遠隔教育も行い、将来帰国したあとでもこのシステムを用いて研究交流が可能となるように配慮する。

WebELSによる遠隔会議については以下を参照

<http://weblsx.ex.nii.ac.jp/Meeting/index.html>

募集方法および選考方法

従来からのホームページや個人的つながりによる留学生募集の他、海外における総研大レクチャーや総研大教員によるセミナー、国際学会発表などで総研大の研究内容をアピールすると共に、留学希望者のインタビューをカップリングさせて行う。このため国際交流協定を結んだ先の大学関係者の協力をよびかけ、集団面接を実施する。これまでも中国、韓国、インド、タイなどで現地面接を実施しているが、今後はこのようなアジア諸国のみならず、ヨーロッパ諸国やアメリカなどにおいても学生募集を積極的に進める。遠隔地の留学希望者については、現在総研大で開発が進んでいるWebELSを利用し、Web上での留学生のインタビューを実施する。

専攻によっては、留学希望者を来日させ、入学者選抜試験によって合否および順位を決定する。

修了後に想定される進路及びフォローアップ体制

本プログラムの修了後はポスドクとして国内あるいは海外で研究者としての道を進むことが想定される。海外の場合はこれまでの例では、母国に帰国するケースと第3国に就職するケースがある。後者の場合、指導教員が第3国での就職先の紹介や交渉をサポートしている。帰国した従来の国際大学院コース修了者の中には現在も共同研究を実施している例や外国人研究員として再来日している例もあり、本プログラムの修了者についても、将来の共同研究や研究交流を通じたフォローアップ体制をとることができる。また、今後はすべての修了者についての追跡調査を実施し、数年に一度程度、総研大が主催する国際シンポジウムに修了者を招聘する。